

# WEEKLY REPORT

国際ロータリー第2600地区 上田ロータリークラブ  
(創立1959年11月12日)

2022-2023年度 国際ロータリーテーマ

## イマジン ロータリー

R.I.会長 ジェニファーE・ジョーンズ

国際ロータリー第2600地区 ガバナー 上沢 広光

2022-23年度 上田ロータリークラブ

- 会長 矢島 康夫 ● 副会長 小幡 晃大・三井 英和
- 幹事 櫻井 雅文 ● 会報委員長 酒巻 弘



## 第2908回例会 (令和5年5月22日)



ホームページQR

### [表彰伝達]

- 米山記念奨学会より  
米山功労法人感謝状贈呈  
東信醸造株式会社  
矢島康夫さん



### [会員卓話]

先週はI.D.M、東近江ロータリークラブ訪問、5クラブ合同ゴルフコンペと、非常に楽しい1週間を過ごすことができましたが、少々ハードだったこともありまして、今日は少し声が出にくく、お聞き苦しいところもあるかとは思いますが、よろしくお願いたします。



三井英和さん

### [会長挨拶]

矢島康夫 会長

皆様こんにちは。

先週の金曜日から一泊二日の日程で、友好クラブの東近江ロータリークラブを訪問してまいりました。同行していただきましたメンバーの皆様お疲れさまでした。高速道路は渋滞もなく、宿泊先の八日市ロイヤルホテルに早めの3時頃到着し、大変多くのメンバーに出迎えをいただきました。例会場も事務局も商工会議所から八日市ロイヤルホテルになったそうです。後で聞きましたが当日3時から次年度理事会を開催することになっていたそうです。



部屋で休憩をし、6時から例会が開始されました。たまたま東近江ロータリークラブのホームページを見ましたら、当クラブとの友好クラブ締結が、1974年5月24日となっていて、今年が49年目そして来年は50年目となります。この間、大変長い友好関係が築かれてきたこととなります。その後懇親会を経て2次会、3次会と懇親を深めてまいりました。例会から懇親会に進むにつれ誰か足りないような気がしてお聞きしたところ、田中さんが昨年秋に亡くなられたそうです。一昨年の秋の叙勲で受賞され、昨年春には盛大な受賞記念祝賀会を開催したそうです。ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

翌日は、安土信長の館、考古博物館の見学、昼食は、近江牛の洋風しゃぶしゃぶをいただき、帰路につきました。東近江の皆様をこちらにお迎えするのは、今年10月か11月になり、あと半年後のこととなります。準備万端整えてお迎えしたいと思っております。

先ほど矢島会長からもお話がありましたが、私も東近江ロータリークラブを訪問してまいりました。今回大変な歓待をしていただきましたので、東近江の皆様がお見えになる秋には、またこちらもしっかりと準備をしてお迎えしたいと思います。さて、東近江には「信長の館」という素晴らしい観光施設があります。他には特段有名な観光スポットが無くても、信長の館があるから観光ができます。正式には安土城天主信長の館と言いまして、文化芸術を発信する基地として設立された総合施設安土町文芸の郷の中に、スペイン・セビリア万国博覧会終了後、移築した安土城天主最上部二層が展示保管され一般に公開されています。1992年のスペイン・セビリア万博の期間中は、最も多い入場者数を記録したとのことで、当時の海外での日本文化への関心の高さが伺われます。現在は万国博覧会では再現されなかった「金箔瓦を葺いた庇屋根」や「天人の絵が描かれた5階の天井」、また、「金の鯨をのせた大屋根」を復元し展示しており、見応え十分でありました。一方、上田市の観光事情はいかがでしょうか。上田市には「信長の館」のような見応えのある観光スポットが少なく、そこが大きな課題だと感じています。観光客が来ないと観光会館とかおみやげ屋さんでもお酒が売れません。必然的に私も困ります。上田市の皆様には、もう少し観光に対する考え方を変えていただいて、信長の館とまでは言わないまでも、真田幸村に関するもう少ししっかりと何らかの施設をつくっていただきたいと思っております。その点が、今回東近江を訪問させていただいて一番感じたこととございます。東近江に伺えるのは2年に1回の機会となりますが、信長の館を観るだけで

もいいと思います。ぜひ一人でも多くの皆さんに参加していただき、東近江ロータリークラブの皆様との親睦を図っていただきたいと思います。繰り返しになりますが、今年の秋には東近江の皆様がお見えになるので、しっかりとお返しをしましょう。

## 『ロータリーの友』 5月号紹介

雑誌委員会 土屋勝浩 副委員長

### 1. リーダーを育むロータリー 青少年交換プログラム

左開き横書きの10ページをご覧ください。「リーダーを育むロータリー青少年交換プログラム」の特集がされています。その中から、有限会社ミコン・フィンランドトレーディング代表の宮脇路子さんの事例を紹介させていただきます。



宮脇さんはフィンランドに交換留学生として派遣され、ホームステイを通じて現地の高校に通いながら、フィンランド語や料理、手芸、ライフスタイルなどを学びました。

フィンランドにはサウナやサマーコテージなど日本人が憧れるものが沢山ありますが、一番羨ましく感じたのは時間の使い方だったそうです。フィンランド人は大自然の中で家族とゆっくり過ごす時間を大切にしている民族であり、オン・オフをうまく切り替えるすべは、日本人も見習うべきものがあるということです。

派遣期間終了後も、フィンランドの文化や生活を日本に紹介したいという想いから、自宅近くで雑貨店やカフェを営む会社を起業し、現在は、テレビ番組などでフィンランド料理の監修も行っているそうです。

青少年交換事業から数十年経ったということですが、これからも日本にフィンランド文化を、フィンランドには日本文化を伝え続けていきたいと締めくくっています。

私たちもまずは他国を知ることで、日本の良さを再確認していきたいですね。

### 2. 「3.11被災地をこの目で見てみよう」

次に18ページをご覧ください。「3.11被災地をこの目で見てみよう」という記事で、ローターアクトが震災の爪痕が残る福島を訪問したときのことが紹介されています。

東日本大震災から12年が経過し、ローターアクトの中にも震災を経験していない人が増えてきています。その時の記憶を風化させてはいけないと使命感に駆られた世田谷南ローターアクトの相良ゆうか会員の思いに胸を打たれ、福島、仙台、静岡、鴨川のクラブが賛同し、今回の被災地訪問の企画となったそうです。

現地では、浪江町立請戸小学校に残る震災遺構を見学し、ガイドの案内によるフィールド視察では当時の地震、津波、原発事故の被害について学んだそうです。そして、最後にはグループに分かれて対話集会を開催し、学びや気づき、疑問点などを共有し、自分でできることを考えたそうです。

参加者からは

「被災地域に住んでいながら、福島県や原発で何があったのか知らないことばかりでした。学ぶ機会を得たことで一歩前に進めたように感じます。」

「これからの社会を担っていく身として、復興の先にあるものを見据えながら行動していきたいと思います。」

「今後も記憶を風化させないように、伝え続けていく意義を強く実感しました。」といった感想が寄せられました。

最後に、「被災地ではまだまだ復興の半ば。私たちの世代が起きたことを正確に理解し、傳承することが大切だ」と締めくくっています。

現在も、能登地方や千葉県で大きな地震が発生しています。地震大国に住む身として、東日本大震災の教訓を活かしながら、私たちも防災と復興支援について考えて行かなければならないと感じました。

### 3. 「その可能性、開く？閉ざす？」

次に、右開き縦書きの4ページをご覧ください。ここでは「その可能性、開く？閉ざす？」と題して、東京大学大学院統合ゲノム学分野教授の織田克利氏の講演内容が掲載されています。

この講演会は新湊RCが設立50周年記念事業として企画し、市内の中学生300人を招いて行われたものです。織田教授が最初に子どもたちに投げかけたのは、「身近な数字で物事を考えてみてください。」というものでした。例えば、富山県から東大へは例年30~40人が合格しています。ということは、富山県から東大に合格する確率は300人に一人、ここにいる皆さんの中から誰かが東大に進学することは何の不思議もないことであり、最初から諦める理由はどこにもありません。この言葉に参加した中学生は大変勇気づけられたのではないのでしょうか。

織田教授は地元スーパーの店主の息子として生まれ、小学生時代からそろばんに出会い、計算力だけでなく数字に関するセンスも培われてきたそうです。従って、数学は「苦しい」ではなく「楽しい」ものであったようです。よく努力を苦痛と感じる人がいますが、「好きこそもの上手なれ」と言われる通り、実力がつくことで次の目標が見えてくる。そして、そのために行う努力は苦にならない。だから、皆さんも好きなものが見つかれば自然と努力ができるようになりますよと語っています。

また、東大を目指した理由として、弁護士になるという目標があったためだと言っておられます。弁護士になるためには司法試験に合格する必要がありますが、合格率は約2%。でも、東大法学部なら確実に合格できるのではないかと考えていたそうです。

まず、自分の強みは何かを見出し、その強みを伸ばすための努力をする。戦略を立て、努力の過程を可視化できるようにする。それをこなしていく中で、自分の目標に近づいていけるという強い信念を持つことが大切だということです。そして、一番いけないのが、「これが苦手だ」という先入観を

持つこと。先入観を持つと大きなチャンスを失う可能性がある  
と注意を促しています。織田教授は高校時代国語が苦手  
だったのですが、好きな作家に出会って本を読む習慣が付き、  
苦手意識が払拭できたということです。

大学受験では文系か理系かの選択がありますが、その際も  
安全運転で大きな幸せを勝ち取る考え方は甘いと思うよう  
になり、弁護士志望でありながらよりリスクの高い医学部を  
選択したそうです。先のオリンピックで、フィギュアスケター  
の羽生結弦選手は4回転半ジャンプに挑戦し、メダルを逃し  
ました。彼だったら、安全運転で演技をしていればメダルを  
獲れたでしょう。この挑戦をもったいないと見るのか、かっ  
こいいと見るのか。現実には多くの人が挑戦に感動したの  
です。チャレンジするプロセスも貴重な財産となると会場の子  
どもたちに伝えていました。

最後に、努力はさせられるものではなく、自発的なもので  
す。「努力しなさい」といわれ「はい分かりました」と努力  
できるほど甘いものではありません。逆に、自分で努力  
できるものを見つけることができれば、それは自分が好き  
で行うことですから、その努力は長続きします。**皆さんも、  
色々なものに挑戦してみると、意外な自分を見つける  
ことができ、色々な道が開けるのでは**と結んでいます。

中学生に向けた講演でしたが、大人である私たちにも  
大きな示唆を与えてくれる内容でした。

#### 4. この人訪ねて

次に、9ページをご覧ください。「この人訪ねて」の  
コーナーで、仙台南・白石RCの麻生菜穂美さんが紹介  
されています。麻生さんは日本舞踊若柳流の師範で、  
多くのお弟子さんを指導されています。10年前からは  
市内の小学4年生を対象に和文を体験する授業を行  
っており、これまでに数千人の小学生を教  
えてきたそうです。

麻生さんは東京生まれで、父親が仙台の片倉家の  
菩提寺を継ぐこととなって白石市に来たそうです。  
転機になったのが、ロータリーの青少年交換  
プログラムでアメリカに渡ったときのことです。  
しばらくは英語も話せず友達もひとりも  
できなかったと言うのですが、振り袖を  
着て母に教わった日本舞踊を踊ると、翌  
日から周囲の態度が一変したそうです。  
そこから沢山の友達に恵まれ、国際的な  
仕事をしたいと思うようになったよう  
です。その後、長野冬季オリンピックが  
開催された際には通訳として活躍され、  
同時に様々な進言をし続けた積極性が  
目にとまり、スイスのローザンヌに  
ある国際オリンピック委員会に出向  
することとなり、しばらくサマランチ  
会長の下で働いていたそうです。

ただ、人生は必ずしも順風満帆というわけ  
ではなく、オリンピック後は離婚も経験し、  
精神的に不調を来していたようですが、  
リハビリになると母に勧められて日本舞  
踊を再開。その後、師範試験にも合格し、  
白石市の教育委員など多くの役職を任  
されるまでに地域での信頼も高まっ  
ていったようです。

特に、東北の人気イベントになった「鬼  
小十郎まつり」は麻生さんが中心とな  
って立ち上げたものであり、『戦国バ  
サラ』

で人気となった片倉小十郎のキャラクター  
をアイコンとして使用できるように交渉し、  
実現できたのはまさに麻生さんの力が  
あったからだということです。

その後、白石北RCの会長も経験された  
そうですが、高い会費を伴う親睦・社交  
クラブではなく、小さくてもいいから地  
域に貢献できるようにしたいと、会費を  
安くして参加しやすいロータリー衛星  
クラブを発足させたそうです。

例会は月二回、会費は月5,000円とい  
うことで、豪華な食事付の例会はでき  
ませんが、今では衛星クラブでありなが  
ら白石市では一番会員数の多いロータ  
リークラブとなったそうです。

最後に、次のようなメッセージで締め  
くくっています。

**「子どもたちには未来があります。この  
子たちには美しい日本の文化を理解し、  
身につけた上で世界に羽ばたいて行  
って欲しい。私がこれまで経験し、そ  
して役に立ったことを、これからも  
少しでも伝えていきたい。」**

私たちもロータリーの活動を通じて次  
世代を担う子どもたちを支えて行  
きたいですね。

#### 【幹事報告】

櫻井雅文 幹事

1. 米山奨学会  
ハイライトよねやま278号
2. 地区事務所  
職業奉仕委員会開催のお知らせ
3. 小さな親切運動  
小さな親切春号
4. 例会変更  
小諸RC 6月7日(水) 定受なし  
28日(水) 定受なし  
小諸浅間RC 6月1日(木) 定受なし  
22日(木) 定受なし
5. 会報恵送 上田六文銭RC



#### 【ニコニコBOX】

関 勇治 委員長

飯島幸宏さん 石井懋人さん  
出田行徳さん 内河利夫さん 小幡  
晃大さん 金子良夫さん 上島  
孝雄さん 柄澤章司さん 河田純  
さん 窪田秀徳さん 桑澤俊恵  
さん 桑原茂実さん 小山宏幸さん  
齊藤達也さん 酒井喜雄さん  
酒巻弘さん 櫻井雅文さん 島田  
甲子雄さん 春原宏紀さん 関啓  
治さん 関勇治さん 滝沢秀一  
さん 田邊利江子さん 成澤厚  
さん 林秀樹さん 増澤延男さん  
三井英和さん 矢島康夫さん  
柳澤日出男さん 柳澤雄次郎  
さん 湯田勝己さん 横沢泰男  
さん 米津仁志さん 保科茂久  
さん



本日喜投額 34名 ￥ 45,000

累計 ￥1,788,000

**[例会の記録]**

司会：小熊直人 会場・出席委員

斉唱：ロータリーソング「四季の歌 春」

- 米山功労法人感謝状贈呈 ●会員卓話
- 『ロータリーの友』紹介 ●会長挨拶 ●幹事報告

**[ラッキー賞]**

- 桑澤 俊恵さん  
(東近江RC訪問メンバー同より、たねやお菓子)
- 河田 純さん  
(東近江RC訪問メンバー同より、たねやお菓子)
- 春原 宏紀さん  
(東近江RC訪問メンバー同より、たねやお菓子)
- 関 勇治さん  
(東近江RC訪問メンバー同より、たねやお菓子)
- 島田甲子雄さん(滝沢秀一さんより、重慶飯店のお菓子)
- 桑原 茂実さん(窪田秀徳さんより、横田基地のお土産)



**[出席報告]**

小熊直人 委員



	本日	前々回 (5/8)
会員数	57	57
出席ベース	53	55
出席者数	42 <small>コロナ欠席1</small>	44
出席免除(b) ( )内は出席者数	6(2)	6(4)
出席免除(a)	0	0
メイクアップ ( )内はMake up後		4(48) <small>コロナ欠席1</small>
出席率	81.13	89.09

**[本日のメニュー]**

- 鶏の照り焼きと牛すき焼重 ●漬物 ●吸い物



**[次回例会予定]**

6月12日(月) 小委員長退任挨拶

(6月5日発行)

【会報担当】 齊藤達也 副委員長

**東近江RCへ訪問 5月19日(金)~20日(土)**

**1日目** 東近江ロータリークラブ 第2963回例会に訪問



東近江RC 津野会長

上田RC 矢島会長



**2日目** 安土城考古博物館



八幡堀



安土城天主 信長の館



八幡堀にて



**第76回 5クラブ親睦ゴルフコンペ**

5月21日(日) 立科ゴルフ倶楽部

